



私の協力者

子供たちへ

教皇様の殿

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済 © 1988 発行所 財団法人 精道教育促進協会 〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6 ☎(0797)31-3452

かわいの子供の皆さん。主を愛していますか？ 聖母マリアを愛していますか？ カトリック教会を愛していますか？

隣の人を愛していますか？ 何千人もの子供たちの代表である皆さんにお会いできて、私はとてもうれしく思います。

挨拶のときに皆さんの喜ぶ様子を見て、この出会いの時をどんなに熱心に待ち望んでくれたかがわかれました。そうでしょうか？ 私もみなさんに会えるこの機会を待ち焦がれていたのですよ。

普段ローマに住んでいますがい、いろいろな教区を訪ねて子供たちに会うのは、私にとって本当にうれしいひとときです。

皆さん方は教会の中で大切な存在です。もし教会が年とった人ばかりでできていたら、どんなに悲しいことでしょうか？ カテケージスに出席

したり、祝日に歌を歌ったり、そしてまた、教会こそ大人も子供もすべての神の子の集う真の家族であると感じさせてくれるその子供がいなかったら、教区や教会共同体はどんなにか空しいものになることでしょうか。それで、福音書にあるように、主は子供たちが身近にいることを望みにしました。「私のところに子供を来ようよにさせておけ……天の国を受けるのはこのような者たちである。(マテオ19・14) そう、皆さんは確かにイエズス様の友だちです。ですから、ヨハネ・パウロ二世教皇の友だちでもあります。

皆さん方は何百万人もの同じ年頃の子供たち全員の代表です。イエズス様は教皇に全世界に福音を伝えるようにとお任せになりましたが、その福音宣教に皆さんが協力してくれらるとわかって、私はとても喜んでいきます。そうです、皆さんは私の仲間、福音をひろめるための仲間なのです。

皆さん方は私に協力してくれています。まず第一に祈りで。それから家族の人や友だちに忠実であること。そしてまた、克己や犠牲性をして布教のために得た義援金で、教皇の福音宣教の意向に力を合わせることによって、皆さん方は話をしに行かれない所には、祈りと犠牲で行くのです。

そうですね。これこそ私が皆さん方に、そして子供たち全員に期待していることなのです。皆さん方はお祈りで私について来てください。そして私は、皆さんの挨拶、平和への願い、それに、私の使徒旅行で絶えず会う全ての子供たちと兄弟でありたいという望み、を携えて行きましよう。いいですね？ こうして私たちは、すべての人を一つにする愛と兄弟関係との鎖を形作ってゆきます。そして、平和、すべての人が切望しているあの平和のために働くのです。

を知らません。また、子供時代の御子イエズス様を世話なさったように私たちが世話してくださる御母マリア様が、自分たちのお母さんでもあるということを知らないのです。福音のメッセージと心安まる教会は、皆さんのものであると同じくその子供たちのものでもあるのに。愛する皆さん、皆さんは友だちであるイエズス様を愛していると言いましたね。では、もっともっと愛してください。イエズス様のように、すこやかに成長し、知恵に満たされ、そして神の恵みにあふれるようになってください。(ルカ2・40参照) イエズス様が生きておいでになること、そして教会に現存なさっていることを、話で、歌で、生活で示してください。

マリア様を愛しているのですね。それなら、聖母にロザリオの祈りを捧げながら、いつも愛をこめてお願いしてください。教会を愛していますね。では、毎日もっともっと愛して、教会と一つになっていてください。そして、司祭や修道者の召し出しを主に願ってください。男女の宣教師の方々のために毎日祈りをささげましよう。もうわかっていませんね、イエズスにおいて、教会において、私たちは一体となっていて、その間を切り離すような隔たりは何もないことを。私のために祈ってください。私も皆さんのために祈りましよう。私の使徒的祝福を受けてください。

女性の模範マリア

祈りと勤めの場であるこの日曜日毎の出会いにおいて、私は教会と社会における女性の召命に度々触れました。(…) 本日も理想的な女性像の模範として聖母に思いを馳せましよう。

私は回勅「救い主の母」46番で次のように述べました。「ナザレトのマリアの姿は女性にとって光明となりました。神の御独り子の受肉(託身)という崇高な出来事に際して、一人の女性の自由で積極的な協力に自らを委ねられたのです。女性は、マリアに目を向けることで女性とし

ての尊敬をもって生き、女性の真の進歩を実現する秘訣を彼女のうちに見出すことましよう。」

とここで聖母と共に、歴史的宗教的に重要な意義をもつ「時が満ちた」とき、星の如く現われた他の多くの女性のことを思い出すべきましよう。

イエズスとその弟子たちに母親らしい心遣いを示しつつ、つき従っていた(数多くの)女性(ルカ8・23参照)、また、あのむごい御受難の道すがらその敬虔な心を際立たせたエルサレムの娘たち(ルカ23・27

(30参照)、十字架の下で御子のひどい苦しみに御母と共に与った婦人たち(ヨハネ19・25参照)、過ぎ越しの夜明けと共に復活の最初の証人となり、それを告げ知らせる幸運を得た婦人たち(ルカ24・9参照)、聖母とともに、高間で聖霊の賜を受けた婦人たち(使徒行録1・14参照)のことです。

福音書の世界には女性が大勢登場します。しかし、女性は、神たる師がお与えになった使徒固有の使命には召されていないことが前述の例によってわかります。とは言え、神の国の福音を浸透させるために、女性が大変重要な役割を果たしていることは事実です。



公会議は啓示の光に照らして神の民とキリストの神秘体の生きる肢体としての女性の尊厳を強調しています。女性の貢献という事実は、公会議の指針と教導職の明らか実りであり、しかも決して小さな実りではありません。ここ数年來、福音宣教、要理指導、典礼、神学の分野で、また教会が世界のために果たしている使命において、女性の貢献には目を見張らせるものがあります。

それゆえ今は、「教会の使徒職の種の分野において女性の参加が広がり、広範囲に及ぶこと」(『信徒使徒職に関する教令』9)を確実にするため、もっと深く考察する好機ではないでしょうか。

「種々のカリスマと奉仕において男女のもつ同じ尊厳を確立するための道となる」マリアを眺めたいと思います。(八七・八・十一「お告げ」)

シスター達へ ほんとうの自由を

1 聖パウロはコリント人への第一の手紙で述べています。「神の下された恵みを知るために、私たちは世の霊ではなく神から出る霊を受けた。」(コリント①②・12) 神はどのような恵みをくださったのでしょうか? この人生に、どんなチャンスが与えられているのでしょうか? あなた方が知り、愛するようになったその恵みとは、イエズス・キリストと親しく一致した生活、皆さんがキリスト御自身にならって生きようとしている生活のことです。キリストの生涯は皆さんのお手本です。その行ないは皆さんの規範、精神は皆さんの力となります。キリストに従うことによって、この世でのキリストの御業に、神の救いの御業を宣べ伝える使命に、皆さんも与ることになるのです。自身の生活から、この崇高な使命を果たすための力と自由を得て、神と人の前に貧しく、一つの共同体の内神に従いつつ、神の王国のために働き続けることができましょう。

2 皆さんは花嫁としての愛を主に捧げ、そこに人生の意味を見出しおられます。御父のあふれるばかりの豊かさから引き出されたキリストの御生命は、皆さん一人ひとりの人生を満たすことができるのです。祈りや黙想の内にキリストと出会い、主への忠誠心に裏打ちされ

た信仰を保てば、自由が得られるでしょう。そして、人々への奉仕と姉妹たちとの共同体のために身をささげることができるでしょう。自分を空しくすること、自己否定を恐れないで、神の愛が皆さんと共にあり、皆さんを支えてくれますから。こうして、結婚や母となることを断念して、天の王国を求めることが可能になります。皆さんの望みは、「どうして主を喜ばせようかと主のことを気づかい」(コリント①⑦・32)、主に専念することです。

このような心構えを、あます所なく実行にうつしたのが処女マリアでした。御告げを受けてから御子の十字架の下にたえずむ日まで、誰よりも「主のことを気づかい」つつ過ごしたのでした。だからこそ全教会の母とされたのです。皆さんの中にも、マリアの名をいただいた人が大勢いらっしゃるでしょう。聖母の模範を心に保ち、聖母の深い信仰に倣ってください。天の国をめざして励む節制の生活が自由と献身に向かうなら、喜びと充実感もいや増してゆくでしょう。そのことを現代の人々に教えてやれるなら、皆さんは人々の目をさまさせることができましょう。心が二つに分かれてしまっている人、全霊をあげて愛そうとしない人のみは、暗闇にとどまる他ありませんが。

さて若い皆さん、本能に縛りつけようとするものに惑わされることなく、キリスト教のこの処女性しるしを見てください。本当の自由は、キリストとの絆を通じて、世を救う神と神のあわれみの前に自らを捧げた人々へのみ、与えられるのです。

3 愛する姉妹の皆さん、あなた方の住む国では、多くの人が何でもお金で買える……、権力も幸福も名声も、何でも……と考えています。皆さんの自発的な清貧は不面目で愚かなものに見えることでしょう。しかし個々人の値打ちは持ち物で決まるではありません。清貧や簡素な生活を通して、皆さんは自分が為す以上の、成し遂げる以上の、思いも及ばぬほどのものとなることのできるのです。

イエズス・キリストは皆さんの宝です。その意味では富も力も名声も、二次的な重要性を持つにすぎません。従って皆さんは自由です。(……) 清貧を通じて、権利を奪われた人、食い物にされた人、無力な人々と特別な絆を保つことができるのです。弱い人々の側に立ち、支えてあげてください。勇気を持って、誠実に。そうすれば、次の言葉はまさしく皆さんにあてはまるでしょう。「何も持たぬようであるが、すべての物を持っている。」(コリント②⑥・10)

キリストに従う者として、喜んで、また自覚して清貧を受け入れてください。マリアとイエズスがベトレヘムで、ナザレトでなさったように。こうして皆さんの生活は、神と一致した生活の究極の豊かさを表わす先触れとなるでしょう。

さて愛する若者の皆さん、あなた方は、人生における真の意味と本当の豊かさを見つけておいてください。イエズス・キリストを「ごらんください。キリストは貧しい者となって、人間の姿でこの世に來られました。皆さんのために、です。キリストのおかげで、神と共にある皆さんの生命は安泰です。存在にまつわる苦悩や不安も、キリストの内において休むことができます。これが皆さんの手にある富です。そのためには何もかも主にさし出すことです。そうすれば主の内にすべてを見出すことができましょう。

4 姉妹の皆さん、昨今は何事においても自由や解放ということが叫ばれ、正当化されて、大いなる重要性を帯びるに至っています。しかし、掟や義務を払いのけることしかできないような人間が、本当に自由だと言えるでしょうか? 権威と名のつくものをすべて疑いの目で見る人が、はたして利己主義から逃れることができるでしょうか。

皆さんは従順の生活をおくっておられます。また、愛する自由を持っています。神を信じ、神の愛に信頼しておられるからです。皆さんが模範とするのはキリストの従順です。「死ぬまで、十字架上に死ぬまで、自分を卑しくして従われた。」(フィリッピ②・8) このような基本姿勢によって、成人としての秩序立った従順の生活をおくり、修道会の上長や教会の権威に従うことができるのです。皆さんの従順は、まず第一に神への従順です。それは所属する修道会の特殊な環境の中でためされ、

説教・講話・書簡等の抄訳

証明されます。そこで神の良き道具となるのです。(…)

ここでもまた、神の御母マリアは皆さんのお手本です。マリアは「なれかし」を告げることによって、神の聖旨を受け入れました。その従順な愛に従って、聖母は十字架の下へと歩み、さらに復活の喜びにも与ることとなったのです。

若い皆さんにお願いしたいことがあります。近視眼的なにもせもの自由にもまどわれないように。やりた

御降誕と

私たちの選び



聖霊があなたにくだり、いと高きものの力のかげがあなたをおおうのです。ですから生まれる御子は聖なる御方で神の子といわれます。(ルカ1・35)

いつも(御告げの祈り)を唱えるために集う私たちは、神の御使いがナザレトの処女に向かって語った言葉をこの祈りのたびに繰り返す耳にします。

本日は、この言葉が成就したこと、を、もう一度喜び合ひましょう。教会は主の御降誕の季節を過(こ)しています。

天使の御告げにより、ナザレトのマリアの御胎内に宿ったまことばは、すでに人となられました。神の御子には名前もつけられています。その名はイエズス、すなわち

できる限りのことをする、というのは、自由に行動する人とは呼ばれません。他の人を押しつけて自分の希望を通しているなら、皆さんは決して自由であるとは言えないのです。皆さんの若々しい情熱を、生命の源である神の聖旨に委ねなさい。善い意志をもって、志を同じくする人たちとの絆を深めなさい。自分にとっても他の人々にとっても、長い目で見て役に立つものは何であるのか、共に探し求めてください。これこそが自由になるための道なのです。

(救い主) という意味です。本日の日曜日の典礼は、神の御降誕の(秘義)を再び深く読み直すよう招いてくれます。

ここでエフェゾ人への手紙の言葉を聞くことにしましょう。「主イエズス・キリストの父である神を賛えよう。彼は、…キリストにおいて私たちを霊の総ての祝福で満たされた。神は世の創造以前から、キリストにおいて私たちを選び…イエズス・キリストによって私たちを御自分の養子にしようと予定された。(エフェゾ1・3・5)

私たちが選ばれた者であることとを考えずに、主の御降誕を(生きる)ことは不可能です。私たちは永遠に御父の(最愛の)御子のうちにいます。

若い信者のみなさんは、世の光となり、福音を証しするという重要な使命を負っています。くじけず、勇気を出して、キリストと共に、キリストの力を得て歩んでください。主も私たちを弱さから助けてください。(ローマ8・26参照)

神が人間に友情を抱いてくださることを、世の人々に証しましょう。皆さんのためにお祈りします。「あなたたちの内にこの勝れた業を始めた方、それを完成してくださる。(フィリッピ1・6)

この神の選びは永続するものであり、ベトレヘムの夜の形をとり、十字架と復活の福音となりました。ベトレヘムの出来事に決定的な印が押されました。すなわち(神の予定)という印です。

私たちは、キリストにおいて神の子となるよう予定された者です。この地上の人間の運命がどのように展開されようとも、新しい年が何をもちたらそうとも、人類の歴史がどのような方向に向かおうとも、(私たち)は選ばれた者)なのです。神の御子が人となられたのは、この地上における人間の存在のあらゆる面を称揚することにより、永遠の真理、つまり、人類に関する神の真理を再確認するためでした。

人の子、イエズス・キリスト

キリストシリーズ ⑨

1 (人の子、そして神であるイエズス・キリスト)

メシアについてずっと述べてきましたが、これはその究極のテーマと言えるものです。そしてキリストの神性と人性という、キリスト教の啓示と信仰の土台をなす真理でもあります。これについては後にさらに詳しく述べることになります。これまで旧約聖書に記されたいくつものメシアの呼び名について考えてきましたが、今回それを終えたいと思います。そしてそれぞれの呼び名を、イエズスがどのような意味で御自分を指すのにお使いになったかを考えてみましょう。

2 (人の子)

旧約聖書のダニエルの書に記されています。次にあげるのは、預言者が夜に見た幻について描いた一節です。「私が夜の幻のうちに見ていると、天の雲とともに(人の子のようなもの)がきて、日の老いた者のもとに進み、その前に導かれた。彼には、権勢、威光、国が与えられ、諸民、諸国、諸國語の者が彼に仕えることとなった。その勢力は永遠のもので、過ぎ去ることがなく、その王国は滅びることがない。(ダニエル7・13・14)

ダニエルの書から

まず(人の子)という称号ですが、人々がイエズスを(神の子)と呼んでいる間にも、イエズスが御自分を指して(人の子)という呼び名をお使いになったのは意義深いことです。石殺しにあう前の助祭ステファノがこの名を呼び(使徒行録7・56)、黙示録の著者が二つの章で使っている(黙示録1・13、14・14)のを除けば誰もイエズスをこの名で呼んだ者はなかったのですが、イエズス御自身は、御自分を(人の子)とお呼びになりました。

3 イエズスが御自分のことを指して用いられた(人の子)という表現は、旧約聖書の正典の伝承に由来するものですが、ユダヤの経



不変の教え

エゼキエルの預言

典外にもあります。そこで注意しなければならぬのは、(人の子) (Son of adam) という表現は、イエズスの時代のアラマイ語ではただ(人) (parrhas) を意味するようになっていました。イエズスは御自分を(人の子)とお呼びになることで、その言葉がもつ普通の意味の背後に、預言者の教えにある救い主の意味をお隠しになることができたのです。(人の子)についての記述は、特にキリストの地上での御生活と御受難の場面によく見られるのですが、キリストの最終的な栄光をあらわす場面においても見られることは、偶然ではないのです。

4

ナザレトのイエズスの地上での御生活について、次のような表現があります。「きつねには穴があり、空の鳥にはねぐらがあるが、人の子には枕するところもない。(マテオ8・20)」「人の子が来て飲み食いすれば、(大食漢、酒飲み、税吏と罪人の仲間だ)と言う。(マテオ11・19) また別の場面では、イエズスの御言葉は強くその御力を示しています。「人の子はまた安息日の主でもある。(マルコ2・28) また屋根の穴からつり下ろされた中風の人を癒される場面では、注目をうながすような調子で仰せになっています。「人の子が地上で罪をゆるす権能をもって、あなたたちを知らせよう。」そして中風の人の向かい、「私は命じる。起きよ、床をとって家に帰れ。(マテオ2・10-11) また、

ヨナが二ネベの人のしるしになつたように、人の子は今の代に對してしるしとなるのである。(ルカ11・30)とも仰せになっています。神秘で覆われた御言葉もあります。「あなたたちは、人の子の日々のただ一日でも見たいと思う時が来るだろう。だが見られまい。(ルカ17・22) ある神学者たちは、エゼキエルの預言とイエズスの御言葉の間の興味深い一致に注目しています。神は「仰せられた(人の子よ、私はおまえをイスラエル人におくる(…)彼らは私に背き(…)彼らに言え、(主は仰せられる(…)」(エゼキエル2・33-4)」「人の子よ、(…)見る目があっても見ず、聞く耳があっても聞かない叛逆の徒の中に、おまえは住んでいる。(同12・2)」「人の子よ、(…)おまえは、包囲されているエルサレムに向かって預言せよ。(同4・1-7)」「人の子よ、イスラエルの家に寓話をいい、たとえ話を語れ。(同17・2) 預言者の言葉をそのまま繰り返しながら、イエズスはお教えになりました。「人の子は見失ったものを尋ねて救うために来た。(ルカ19・10)」「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、多くの人のあがないとして自分の命を与えるためである。(マルコ1・45、マテオ20・28)」「人の子もまた御父の栄光をもって下り来るその時、人の子とその言葉を恥じる者を、恥じることでしょう。(マルコ8・39参照) 神の国の使者、そして人々を回心へと招く預言者という二

6

重の観点から見ると、(人の子)の姿は神の代理人と映じてきます。さらに御父の聖旨に従い、人々をあがない救うために苦しみと地上的条件を味わわれた御方、人々の(代理人)ということにもなります。イエズスはニコデモにお話になりました。「モーゼが荒野でへびを上げたように、人の子も上げられねばならぬ。それは、信じるすべての人が、彼によって永遠の命を得るためである。(ヨハネ3・14-15) 御受難について、繰り返しはつきりとお話になりました。「それから人の子が多くの苦しみを受け、長老や司祭長や律法士らに見捨てられ、ついに殺され、三日後によりがえることを弟子たちに教え始められた。(マルコ8・31) マルコの福音には、三度に渡って御受難について予告なされたことが記されています。(同9・31、10・33-34参照) どの場面でもイエズスは御自分を(人の子)と呼んでおられます。

十字架の上のはずかしめ

カヤファの裁きの席でも、この表現を用いて御自分を指しておられます。「おまえはキリストか、祝されたものの子か」と尋ねられて、「そのとおりである。あなたたちは(人の子)が力あるもの、の右に座し、天の雲に乗り来るのを見る(マルコ14・62)とお答えになりました。これはダニエルの預言のこだまと言えます。「天の雲とともに、人の子のようなものがきて、ダニエル7・13)と。また神の右に座した

7

もう主を見ることを歌った詩篇110節にも繰り返されています。(詩篇110・1参照) イエズスは何度も(人の子)が上げられることをお話になりましたが、それが十字架の屈辱を通じたことであることを、聞く者に隠されませんでした。イエズスがほめられた悲劇的な損現をよく理解しながらも、あえて「あなたはどうして人の子が上げられるとおっしゃるのですか。その人の子とはだれですか(ヨハネ12・34)と人々や弟子たちは尋ねましたが、このような反対と不信の態度をご覧になって、イエズスはお答えになりました。「あなたたちが人の子を上げてのち、私が(それ)だったと知り、私が自分では何事もせず、ただ御父に教えられたとお話ししたのだと知るだろう。(ヨハネ8・28) 十字架に(上げられる)ことはすなわち栄光をもたらしすことである、と断言なさいました。さらに、人の子が栄光を受ける時が来た(ヨハネ12・23)とも言われます。ユダが高間から出て行ったあとのイエズスの御言葉はとても重要で、「今や人の子は栄光を受けました。人の子によって神が栄光を受けたもうた。(ヨハネ13・31) ダニエルが粗描した御生涯、御受難、死、そして栄光の意味することがこの御言葉によってわかります。またイエズスは、ダニエルが人の子の御業に帰した永遠で果てしない王権を、御自分のものとして表明なさいました。世の終わりの預言の中で、「人の子が大いなる勢力と栄光をおびて雲に乗り下るのを見る

「教皇様の声」専用ファイル発売中

『教皇様の声』を約3年分保存できる専用保存ファイルがあります。ご希望の方は係までお申込みください。

定価 700円

送料 1~2冊・240円 3~4冊・350円 5冊以上・600円

【ポリプロピレン樹脂製(ロイヤルレッド)金文字装丁】

教皇様の声 ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部送料四十四円 年予約八〇〇円送料九〇〇円 上部以上の一括購入なら送料不要 郵便振替 神戸 3-72393